

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	医療英語		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	橋本 美喜男				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	医療専門職として必要な基礎的英語能力を身につける。					
到達目標	1) 視能訓練士として外国人と基本的な英会話ができる。 2) 身体の各部分の名称や主な病気や症状を英語で表現でき、説明できる。					
授業計画	1. Introduction 2. Body Parts 3. Musculoskeletal System 4. Cardiovascular System 5. Respiratory System 6. Digestive System 7. Brain, Nervous System and Sensory System 8. Urinary System 9. Reproductive System 10. Endocrine System 11. Mental Disorders 12. Cancer 13. BLS and ALS 14. Rehabilitation 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	各講義での小テスト。単位認定テスト。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	井上真紀 他 (2021) Because We Care, Second Edition – English for Healthcare Professional, センゲージラーニング株式会社.					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	医療統計学		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	生理光学，視覚生理学等の専門科目を理解するために必要な基礎数学を補修する。また，医学分野における統計学の必要性を理解し，基礎知識を修得する。					
到達目標	公務員試験の教養科目／数的推理（初級）レベルの知識を理解する。 医学論文を読むために必要な統計の解釈の仕方を理解する。					
授業計画	1. 数と計算の基本（整数，小数，分数の計算）の復習，累乗・平方根 2. 平方根・数の表記方法 3. 式の変形 4. 対数 5. 有効数字，生理光学分野の演習 6. データの活用 7. 資料解釈 8. 医療灯計の基礎 9. 統計処理の基本（P 値，信頼区間） 10. 統計処理の基本（平均，散らばり・分布） 11. 統計処理の基本（相関と回帰） 12. 統計処理の基本（検査特性） 13. 統計処理の基本（結果の読み取り方） 14. 統計処理の基本／演習問題 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は，90 点以上を “S_”，80 点以上を “A_”，70 点以上を “B_”，60 点以上を “C_”，60 点未満は “D_” とする。					
テキスト	なし					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生命倫理学		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	木津 由美子, 御幡 美紀				専任兼任の別	兼任
	実務教員	■該当	(実務経験の概略)			
授業概要	前半： 当科目の学習を通して医療職者として必要な「生命倫理」「医療倫理」とは何かを学び、複雑化・多様化する生命倫理の課題への探究心を深める。 後半： 眼科医療機関で実際に視能訓練士が働いている現場を見学し、将来の目標を設定する。					
到達目標	前半： 医療において重要かつ基本的な医療倫理や倫理的諸問題を学び、生命倫理及び人の尊厳について幅広く理解する。 後半： 理想とする視能訓練士像を明確にする。					
授業計画	1. 生命倫理に関する規範： 伝統的な医の倫理、医療倫理の 4 原則、患者中心の医療 2. 生命倫理に関する基本事項： 職務倫理と基本的心構え、視能訓練士の倫理、患者の権利と医療者の義務、「患者の権利に関するリスボン宣言」 3. インフォームド・コンセントの倫理的意義： インフォームド・コンセントとは何か、インフォームド・コンセントと患者中心の医療、守秘義務の遵守と個人情報保護 4. 生命倫理学(バイオエシックス)に関する諸問題： 生命の始まりに関わる倫理的問題、生命の終わりに関わる倫理的問題、その他の倫理的問題、臨床倫理学 5. 研究と医療倫理： 研究と医療倫理の関わり、人を対象とした研究の倫理指針、倫理的配慮が必要な研究、研究への協力依頼の方法 6. 端医療技術と生命倫理： 遺伝子・ゲノム医療、再生医療、医療におけるロボットと AI、更にその先(BMI/BCI、MR) 7. 医療と社会： 医療情報の保護と共有、医療安全への取り組み 8. 単位認定試験 9. 見学実習オリエンテーション 10. 見学実習直前オリエンテーション 11. 見学実習 12. 見学実習 13. 見学実習 14. 見学実習 15. 見学実習反省会					
成績評価の方法	前半： 成績評価は、筆記試験 80 点、課題 10 点、授業参加度 10 点、計 100 点で実施する。 後半： レポートにて評価し 60 点以上で合格とする。 評定は、90 点以上を「S」、80 点以上を「A」、70 点以上を「B」、60 点以上を「C」、60 点未満は「D」とする。					
テキスト	視能学 第 3 版 (文光堂)					
参考図書	生命倫理と医療倫理・第 4 版(金芳堂)、看護学生のための医療倫理(丸善出版)					
備考・特色	初回授業時に授業ガイダンス(授業目標・学習内容・受講上の注意事項等)を示す。 課題(「生命倫理学・要点プリント」)に取り組む。					

基本情報	科目名	人間関係論		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	四童子 龍子				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	・多様な人々と仕事をしていく上で必要な基礎力の育成。主に論理的に考え、思考する力を高める。 ・ストレスについて理解し、自身をコントロールする必要性ややり方を知る。					
到達目標	・論理的な思考を身につけ最終的に 800 字程度の小論文を書く事ができるようになる。 ・論理的な思考に基づいた自らの体験や意見を短くまとめアウトプットできる。それらの要点を絞って聞きながらメモにすることができる。 ・ストレスについて理解を深め、自分なりの対応をとることができるようになる。					
授業計画	1. オリエンテーション「社会の中で必要な力」を理解し、現在の自己分析をする。 2. 論理的な思考力の基礎知識を学び、身につける 1 3. 論理的な思考力の基礎知識を学び、身につける 2 4. 論理的な思考力の基礎知識を学び、身につける 3 5. 論理的な思考力の応用 1 6. 論理的な思考力の応用 2 7. これまで理解した知識を基に 200 字程度の文を書く。 8. これまで理解した知識を基に小論文を書く。 9. これまで理解した知識を基に小論文を書く。 10. 与えられたテーマを自らの体験や意見を交え短い文章にまとめ、それをアウトプットする。 11. それぞれが「書いた」短い文章を基に「聞く」「メモする」活動に取り組む。 12. グループワークで普段使う言葉の言い換えをみつけ、語彙を増やす。 13. 社会の中で必要な言葉の言い回しを身につける。 14. ストレスについて理解し、対応を知る。 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）10 割 試験 60 点以上を合格 小論文を含む。評価は、90 点以上を“S”、80 点以上を“A”、70 点以上を“B”、60 点以上を“C”、60 点未満は“D”とする。					
テキスト	講義に合わせて資料を作成。					
参考図書	『ふくしま式 200 字メセッドで「書く力」は驚くほど伸びる！』福嶋隆史 2013 年 大和出版 『論理的思考力を鍛える超シンプルトレーニング』福嶋隆史 2010 年 明治図書 『声に出して読みたい日本語』斎藤孝 2001 年 草思社 『ワークショップ人間関係の心理学』藤本忠明・東正訓編 2004 年 ナカニシヤ出版他					
備考・特色	主体的な活動を多く入れます。グループワークなどの相互の意見や知識を取り入れる活動を入れます。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	キャリアデザイン論		分野	基礎					
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解					
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義				
担当者	光法 真帆, 他				専任兼任の別	兼任				
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)							
授業概要	<p>前半： 社会人としてのビジネスマナーを学ぶ。眼科医療機関で実際に視能訓練士が働いている場面を見学し、将来の目標を設定する</p> <p>後半： 視能訓練士法と関係法規について履修する。視能検査機器に関する基本的知識を履修する</p>									
到達目標	<p>前半： 理想とする視能訓練士像を明確にする。</p> <p>後半： 視能訓練士法について学び、視能訓練士の責務、倫理、業務の管理、運営を理解する。視能検査機器の基本的知識を習得する。</p>									
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要, 二択漢字, 自己推薦書, 志望理由書 2. 履歴書 3. 接遇 4. 手紙, メール 5. 電話 6. 面接 7. 面接 8. 小論文, レポート, スピーチ 9. 小論文, レポート, スピーチ 10. 小論文, レポート, スピーチ 11. 単位認定試験 12. 検査機器の規格・構成、安全管理 13. 視能訓練士法と業務 14. 視能訓練士法と業務 15. 診療における視能訓練士の役割 									
成績評価の方法	<p>単位認定試験（筆記）。本人手書きのノート，講義での配布プリントを持ち込み可。</p> <p>評定は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。</p>									
テキスト	なし									
参考図書										
備考・特色	A4, B5 のポケットファイルを準備してください									

2025 度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	多職種連携学		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義, 演習
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	この授業は、多職種連携について 2 年次保健医療福祉学Ⅱとパッケージとして段階的に実施します。1 年次は初段階として、良好な対人関係を築くためのコミュニケーションの在り方、価値観の共有と葛藤についてグループワークと成果発表を行います。					
到達目標	医療専門職を志す学生がそれぞれの専門職性について相互に学ぶ体験を通じて、医療における自己の専門職性の役割を理解し、将来の医療連携の展望や連携に必要な「力」を育むことを目標とします					
授業計画	1. 授業説明, 導入 2. アイスブレイキングワーク コミュニケーションについて 3. グループワーク 他者に与える「印象」と「自己覚知」についての考察 4. グループワーク（コンセンサスゲーム）アサーションとコンフリクト 5. ワーク 6. ワーク 7. ワーク 8. グループ発表					
成績評価の方法	・成績評価はグループでの成果発表を採点し成績とします。 ・成績は 90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C として「合格」とします。60 点未満は D として「不合格」とします。					
テキスト	なし					
参考図書	「リハベシク コミュニケーション論・多職種連携論」（医歯薬出版株式会社） （検査さんの新しくできる本）					
備考・特色	この授業では、授業全体をグループワーク中心に進めます。 皆さんの主体性を持った授業参加を期待します。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎医療科学		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	身体の構造と機能を学ぶ。					
到達目標	身体の基本構造や、各組織の働きを理解する。					
授業計画	1. 細胞（細胞と組織） 2. 細胞（構造と働き） 3. 細胞（組織） 4. 細胞（血液） 5. 細胞（血液） 6. 呼吸器 7. 循環器 8. 中間まとめ 9. 消化器 10. 泌尿器・生殖器・内分泌器 11. 内分泌器 12. 神経 13. 神経 14. 遺伝 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	目でみるからだのメカニズム（医学書院） 視能学第 3 版（文光堂）					
参考図書	まるわかり基礎生物（南山堂）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎教養学		分野	基礎	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	公務員試験（初級）教養科目のうち数的処理と国語の演習を行いながら，高等学校までの基礎学力の補修・向上を目指す。また，伝統文化に触れることで，専門分野以外にも興味を持ち視野を広げることの大切さを知る。					
到達目標	数学，国語の苦手意識をなくす。 相手に対する“心遣い”を感じ取る。					
授業計画	1. 数的処理，国語，人文科学 2. 数的処理，国語，人文科学 3. 数的処理，国語，人文科学 4. 数的処理，国語，人文科学 5. 数的処理，国語，人文科学 6. 数的処理，国語，人文科学 7. 人文科学／伝統文化演習（茶道） 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は，90 点以上を“S”，80 点以上を“A”，70 点以上を“B”，60 点以上を“C”，60 点未満は“D”とする。					
テキスト	なし					
参考図書						
備考・特色						

基本情報	科目名	解剖生理学 I		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	紀 瑞成（医学博士）				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 人体解剖学、組織学、発生学の実習、講義を担当する。			
授業概要	人体解剖生理学の知識は、医療に携わる者にとって最も基本的な学問であるため、細胞・組織・器官の階層性の観点から人体の正常な形態と構造、機能と役割を系統的に学び、臨床実践に必要な人体の知識を身につける。					
到達目標	1. 人体を構成する各部位・器官の名称と形態・構造の特徴を説明できる。 2. 正常な人体機能、各器官の働きを具体的に説明できる。 3. 人体の器官・組織の機能・構造的な相互関係を説明できる。					
授業計画	1. 細胞の構造と機能 2. 組織の種類、構造と機能 3. 血液の成分と働き 4. 免疫系の構造と機能 5. 呼吸器（気道の構造と機能） 6. 呼吸器（肺の構造と機能） 7. 循環器（体循環・肺循環、胎児血液循環） 8. 循環器（心臓の構造と機能） 9. 循環器（血管の構造と機能） 10. 循環器（リンパ系の構造と機能） 11. 消化器（構成と特徴） 12. 消化器（口腔・咽頭・食道の構造と機能） 13. 消化器（胃・小腸・大腸の構造と機能） 14. 消化器（肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能） 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	目でみるからだのメカニズム（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

基本情報	科目名	解剖生理学Ⅱ		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	紀 瑞成（医学博士）			専任兼任の別	兼任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 人体解剖学、組織学、発生学の実習、講義を担当する。			
授業概要	人体解剖生理学の知識は、医療に携わる者にとって最も基本的な学問であるため、細胞・組織・器官の階層性の観点から人体の正常な形態と構造、機能と役割を系統的に学び、臨床実践に必要な人体の知識を身につける。					
到達目標	1. 人体を構成する各部位・器官の名称と形態・構造の特徴を説明できる。 2. 正常な人体機能、各器官の働きを具体的に説明できる。 3. 人体の器官・組織の機能・構造的な相互関係を説明できる。					
授業計画	1. 泌尿器・生殖器・内分泌器（構成と特徴） 2. 泌尿器の構造と機能 3. 生殖器の構造と機能 4. 内分泌器の構造と機能 5. 骨・筋肉（総論） 6. 骨の構造と機能 7. 関節の構造と機能 8. 骨格筋の構造と機能 9. 神経系（総論） 10. 中枢神経の構造と機能 11. 末梢神経の構造と機能 12. 自律神経の構造と機能 13. 感覚器の構成と特徴 14. 視覚系・聴覚系の構造と機能 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	目でみるからだのメカニズム（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	発達心理学 I		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	麻生 良太				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	対人援助職に就くものは、人間の心理やそれに基づく行動についての深い理解が求められる。本授業では、心理学の基礎、特に発達心理学の胎児期～学童期について学ぶとともに、それが実生活でどのような行動として表れているかを考えることを通して、適切な対人援助を希求する姿勢を涵養することを目的とする。					
到達目標	・胎児期～学童期の人間の心理について、基礎的な心の仕組みを発達的な視点から理解することができる。 ・胎児期～学童期の人間の行動について、発達心理学的な視点から理解し適切な対応等について考えることができる。					
授業計画	1. 発達心理学とは（概説） 2. 発達の諸理論 3. 胎生期の発達と環境 4. 脳とからだの発達 5. 感情の発達 6. 動機づけの発達 7. 中間試験 8. 自己とパーソナリティの発達 9. 言語の発達 10. 認知の発達 11. 愛着の発達 12. 人間関係の発達 13. 社会性・道徳性の発達 14. 心理的発達の過程における障害 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間試験（50％）、単位認定試験（50％）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	ライブラリ 心理学を学ぶ 5 発達と老いの心理学（サイエンス社）					
参考図書						
備考・特色	授業をただ聞くだけでなく、自分のこととして考える姿勢や、対人援助者の立場で授業内容をとらえ、実際どのように行動すべきかを考えることを求めます。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	発達心理学Ⅱ		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	四童子 龍子				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	この授業では、青年期から老年期までの人間の発達及びその心理を学びます。					
到達目標	1. 3つの発達理論を軸に人間の一生の発達や課題を理解する。 2. 青年期から老年期の各々のステージにおける発達や心理の在り様を学ぶ。 3. 様々なワークを通じて自己理解を深める。					
授業計画	1. フロイト・エリクソン・ピアジェの理論を中心に発達の概略を学ぶ。 2. 思春期・青年期の「身体の変化と心」 3. 思春期・青年期の「男女の差」 4. 思春期・青年期の「親子関係」と「友人関係」 5. 思春期・青年期の「自分について」及びアイデンティティと将来について 6. 発達障害について 7. 成人期初期の自立 8. 成人期初期の恋愛と結婚 9. 成人期初期・中期の親になること（妊娠・出産の諸問題） 10. 成人期後期の身体と心の発達 11. 成人期後期の夫婦関係 12. 成人期後期の社会生活の移行と対人関係の変化 13. 老年期の身体的変化と受容及び対人関係 14. 老年期のメンタルヘルス 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記 10 割）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	ライブラリ心理学を学ぶ 「発達と老いの心理学」藤田文 編著 サイエンス社					
参考図書	講義に合わせて作成資料を配布。					
備考・特色	初回の講義において注意事項を説明します。禁止する事項は厳守の事。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎医学Ⅰ		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	木津 由美子				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 看護師、高等学校教諭(看護、保健、養護)			
授業概要	当科目の学習を通して視能訓練士として必要な医療及び患者ケアの基礎的・基本的知識を習得する。特に、対象の理解を基に医療の質と安全の確保、チーム医療の概要を理解することにより、視能訓練士の役割と義務を学び、保健・医療・福祉の概要や視覚障害をもつ患者のケアについて理解する。演習項目として、フィジカルアセスメント、感染予防及び救急対応の基礎知識・基礎技術を学ぶ、					
到達目標	1. 医療の対象について、さまざまな健康水準や心理過程等を学び、理解する。 2. 医療の質と安全の確保について、特に医療安全や感染予防の観点から理解する。 3. チーム医療について、医療スタッフの連携やチームワーク、連絡体制管理等を通して理解する。 4. 保健医療福祉の諸活動に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
授業計画	1. 医療の対象の理解 2. 患者・医療者(視能訓練士)関係 3. 患者及びその家族・小児・高齢者・障害者の心理特性とケア 4. 医療面接の方法 5. 演習(1) フィジカルアセスメントの基礎知識・基礎技術① 6. 演習(2) フィジカルアセスメントの基礎知識・基礎技術② 7. 診療録の記録と報告 8. 安全の確保と危機管理 9. 医療関連感染対策 10. 演習(3) 感染予防の基礎知識・基礎技術① 11. 演習(4) 感染予防の基礎知識・基礎技術② 12. 救急対応と処置 13. 演習(5) 救急対応と処置① 14. チーム医療の概要 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験 80 点、課題 10 点、授業参加度 10 点、計 100 点で実施する。評定は、90 点以上を「S」、80 点以上を「A」、70 点以上を「B」、60 点以上を「C」、60 点未満は「D」とする。					
テキスト	視能学 第 3 版(文光堂)、視能検査学 第 2 版(医学書院)					
参考図書	系統看護学講座 (医学書院)					
備考・特色	初回授業時に授業ガイダンス(授業目標・学習内容・受講上の注意事項等)を示す。技術演習には興味関心をもって臨む。課題(「基礎医学Ⅰ・要点プリント」)に取り組む。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎医学Ⅱ		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	荒金 茂樹				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 外科医（心臓，肺，産婦人科）を経て，病理医として勤務			
授業概要	医療従事者として知っておくべき医学の基礎を学び，医学用語を正しく理解し，疾病の原因や成り立ちについて理解を深めます。					
到達目標	1）医学用語を正しく理解する。 2）疾病の原因や成り立ち，回復過程を理解する。					
授業計画	1. 病理学，病因論，細胞・組織の障害と修復，代謝障害 2. 循環障害 3. 炎症と免疫 4. 感染症 5. 先天異常と染色体・遺伝子異常 6. 腫瘍 1 7. 腫瘍 2 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記試験）。評価は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	プリントを配布します。					
参考図書	特に設けません。					
備考・特色	授業をしっかり聞いて，復習しましょう。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚認知学		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤 圭子				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	この科目では神経科学的な知見を踏まえて、視覚に関する知覚メカニズムを学習する。また、脳血管障害によって起こる高次脳機能障害については、視能訓練ならびに検査を行う際に配慮すべき障害を中心に学習する。					
到達目標	・ 脳についての基本的事項や、視覚に関連する情報処理過程について理解する。 ・ 脳血管障害患者と関わる際に配慮すべき高次脳機能障害について理解する。					
授業計画	1. 大脳の構造と機能 2. 視覚認知総論① 初期視覚野と視覚路 3. 視覚認知総論② 視覚の処理について 4. 高次視覚情報処理（認知の影響） 5. 脳血管障害について 6. 高次脳機能障害とは 7. 視覚にかかわる高次脳機能障害 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	・ 単元ごとの確認テストや振り返り(ライティング)など日々の学習成果(20%)、および定期試験(80%)の合計を 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。なお、講義への参加状況や取り組み姿勢等も成績評価に考慮する場合がある。 ・ 再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。 ・ 成績の基準は S：90 点以上、A：80 点以上、B：70 点以上、C：60 点以上、D：60 点未満とする。					
テキスト	・ 視能訓練学（医学書院） ・ 適宜、講義資料を配布します					
参考図書	・ カンデル神経科学（メディカルサイエンスインターナショナル） ・ 病気が見える 脳と神経（メディックメディア）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	小児科学		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	李 康生（医学博士）				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	小児科における主な小児疾患を中心に修得し，小児科学全般への理解を目指す					
到達目標	視能訓練士にとって小児科学における必要な知識を得るため，小児疾患について基本的なものを修得する					
授業計画	1. 新生児疾患 2. 循環器系疾患 3. 呼吸器系疾患 4. アレルギー疾患 5. 代謝疾患 6. 脳神経疾患 7. 運動器疾患 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学／第 3 版（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	精神医学		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	駄阿 優子（医師）				専任兼任の別	兼任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し、精神科の診療を行っている			
授業概要	1) 精神科で扱う各種疾患の症状、検査、治療について学びます 2) 皆さん自身の心の健康を保つ方法について学びます					
到達目標	1) 代表的な精神疾患の症状や治療を理解する 2) 心因性視能障害の症状を理解し説明できる 3) 自身のメンタルヘルスに留意できる					
授業計画	1. 総論 2. 各論 1 気分障害－うつ病と双極性障害 3. 各論 2 統合失調症 4. 各論 3 神経症－パニック障害、社交不安障害、強迫性障害、解離性障害 5. 各論 4 心因性視能障害 6. 各論 5 認知症 7. 各論 6 パーソナリティ障害、摂食障害、発達障害 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）100 点満点とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	スライド配付					
参考図書	講義内で適宜紹介します					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	臨床神経学		分野	専門基礎					
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義				
担当者	樋口 安典（医師）				専任兼任の別	兼任				
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）							
授業概要	① 眼に関与する中枢神経系、および末梢神経系の各疾患を学習する。 ② 眼に関与する全身疾患を学習する。									
到達目標	① 頭蓋内圧亢進症の原因、症状（全身および、眼症状）を説明できる。 ② 眼に関与する全身疾患を理解する。									
授業計画	1. 中枢神経の解剖（マクロおよびミクロ）と生理について 2. 頭蓋内圧亢進について 3. 脳血管障害について 4. 脳腫瘍について 5. 神経変性疾患、および糖尿病について 6. ミトコンドリア病について 7. 目の関連全身疾患について 8. 単位認定試験									
成績評価の方法	成績評価は筆記試験を行う。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。									
テキスト	前もって講義資料を配布します。									
参考図書	目でみるからだのメカニズム 病気が見える 脳・神経									
備考・特色										

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	内科学		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	織部 安裕（医師）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 内科医として病院において診療を行っている			
授業概要	内科系疾患の診断と治療について学ぶ					
到達目標	1) 内科系疾患の特徴について学ぶ 2) 内科系疾患と眼科疾患の関係の理解を深める					
授業計画	1. 循環器疾患／特に高血圧症と動脈硬化症について 2. 呼吸器疾患（１）（２） 3. 感染症 4. アレルギー・リウマチ・膠原病 5. 腎・泌尿器疾患、電解質異常 6. 内分泌疾患 7. 代謝疾患、糖尿病、糖尿病以外、骨粗鬆症 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	Cross Link basic リハビリテーションテキスト 内科学 （メジカルビュー社）					
参考図書	必要図書等があれば紹介します					
備考・特色	授業の予習内容を事前に伝えます					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	耳鼻科学		分野	専門基礎	
				教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤 朋子				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	聴覚系・前庭平衡系や嗅覚系・味覚系の基本的な構造・機能と、これらに関わる検査や疾患について学ぶ。					
到達目標	・ 嗅覚系・味覚系の基本構造・機能について理解できる ・ 前庭平衡系の基本構造・機能、検査について理解できる ・ 聴覚系の基本構造・機能ならびに検査、疾患について理解できる					
授業計画	1. 嗅覚系・味覚系の構造・機能 2. 前庭平衡系の構造・機能 3. 前庭平衡系の検査・疾患 4. 聴覚系の構造・機能 5. 聴覚系の検査 6. 聴覚系の疾患 7. 聴覚系の検査演習 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	・ 成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う ・ 成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・ 成績の基準は S：90 点以上、A：80 点以上、B：70 点以上、C：60 点以上、D：60 点未満とする ・ 再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する					
テキスト	・ 目でみるからだのメカニズム（医学書院） ・ 視能学（文光堂） ・ 配布資料					
参考図書	・ 生体のしくみ標準テキスト新しい解剖生理（医学映像教育センター）					
備考・特色	「7. 聴覚系の検査演習」は2グループに分かれて、大分リハビリテーション専門学校言語聴覚士の聴覚検査室で検査演習を実施します。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能学概論		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	1 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査を有している			
授業概要	視覚系の構造・機能、視覚生理学の基礎と形態覚について履修する					
到達目標	1, 視覚系の構造ついて理解し、基本的知識を習得する 2, 視覚生理学の基礎を学び形態覚を理解する					
授業計画	1. 眼球と眼球付属器、視覚伝導路 2. 視覚情報の基本と機能 3. 視覚生理学の基礎 4. 視力①（視覚の成り立ち、形態覚） 5. 視力②（評価方法、視力の種類） 6. 視力③（視力検査の種類とその特徴） 7. 視力④（視力に影響する因子、コントラスト視力） 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験にて 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学第 3 版(文光堂)、視能訓練学第 2 版(医学書院)、現代の眼科学改訂第 13 版					
参考図書	随時配付資料					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	レンズ光学Ⅰ		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	藤井 弘也				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	光と光学機器についての幾何学的・物理的原理と機能および眼の光学的な機能および眼の光学的検査・矯正機器の基礎について学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・ 視能訓練士の業務を行う上で重要なレンズを中心としたレンズ光学の基礎を理解する。・ 光の性質について、その特徴を述べることができる。・ レンズやプリズムなどの光学機器についての性質について作図，計算を使って説明することができる					
授業計画	<ol style="list-style-type: none">1. 光の性質・波としての光2. 幾何光学（レンズのしくみと像のでき方）3. 幾何光学（バージェンスとプリズム）4. レンズの種類と特長（凹・凸レンズ）5. レンズの種類と特長（球面・円柱・トーリックレンズ）6. ミラー（凹・凸面鏡による像のでき方）7. 収差8. コーティング・フィルタ9. 光安全性とレーザー光学10. 波動光学（偏光・回折）11. 波動光学（干渉）・粒としての光12. 眼球光学・矯正の光学13. 視力検査・コントラスト感度検査14. 他覚的屈折検査・眼底検査・視野検査・色覚検査15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）10 割，期末試験平均 60 点以上を合格とする。評価は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	出版社：医学書院 視能学エキスパート 光学・眼鏡（第2版） 著者：松本富美子他					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	レンズ光学Ⅱ		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	1 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	基本的なレンズの知識を学ぶ					
到達目標	・ レンズの特徴を理解する ・ レンズの表記、書き換えを習得する					
授業計画	1. レンズの種類・表記について 2. “ 3. レンズの書き換え 4. “ 5. 眼鏡レンズについて 6. “ 7. まとめ 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）にて 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	視能学エキスパート光学・眼鏡第 2 版(医学書院)、理解を深めよう視力検査 屈折検査(金原出版)、屈折異常とその矯正 改訂第 7 版(金原出版)、視能学第 3 版(文光堂)					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	レンズ光学演習		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	眼鏡処方に必要な基本的知識と検査を学ぶ					
到達目標	・眼鏡レンズとフレームの特徴を理解する ・目的に応じて瞳孔間距離の計測が出来る ・各種眼鏡レンズをレンズメータで測定できる					
授業計画	1. 瞳孔間距離計測検査 2. 眼鏡検査/眼鏡フレーム及びレンズ 3. 眼鏡検査/レンズメータ(目的・種類・初期設定) 4. 眼鏡検査/レンズメータ(単焦点レンズの構造と測定方法) 5. 演習①(瞳孔間距離計測と単焦点レンズの測定) 6. “ 7. 演習②(瞳孔間距離計測と単焦点レンズの測定) 8. “ 9. 眼鏡検査/レンズメータ(二重焦点・累進屈折力レンズの構造と測定方法) 10. 眼鏡検査/レンズメータ(プリズムレンズの測定方法) 11. 演習③(瞳孔間距離計測と二重焦点・累進屈折力・プリズムレンズの測定) 12. “ 13. 演習④ 14. 実技試験 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）6 割、実技試験 4 割の合計が 60 点以上を合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート光学・眼鏡第 2 版(医学書院)、理解を深めよう視力検査 屈折検査(金原出版)、屈折異常とその矯正 改訂第 7 版(金原出版)、視能学第 3 版(文光堂)					
参考図書						
備考・特色	演習毎にレポート提出					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	情報処理工学		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	3 年次の臨地実習，卒業研究に備えてパソコンの操作方法を学ぶ。					
到達目標	コンピュータの基本知識を学び，Word，Excel，Power Point の基本的な操作を習得し，使いこなせるようになる。					
授業計画	1. コンピュータの基礎知識，情報セキュリティ，電子メール 2. Word ①（基礎） 3. Word ②（応用） 4. Excel ①（基礎） 5. Excel ②（基礎） 6. Excel ③（応用） 7. Power Point ① 8. Power Point ② 9. グループワーク ① 10. グループワーク ② 11. 課題 ① 12. 課題 ② 13. 課題 ③ 14. 発表 15. 発表					
成績評価の方法	レポートの提出を成績評価とし 60 点以上を合格とする。評定は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト						
参考図書	看護のための情報リテラシー（東京図書）					
備考・特色	各自パソコンと USB を準備する。 学生による発表あり。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	眼薬理学		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	2 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	薬物の作用機序・効果・副作用について学び、眼科の検査・診断・治療に用いられる薬剤について理解する。					
到達目標	眼科検査に用いる主要な薬物について理解し説明できる。 眼の検査、治療に用いる薬物の副作用について理解し説明できる。					
授業計画	1. 薬理学を学ぶにあたって 2. 薬理学の基礎知識 3. 薬理学の基礎知識 4. 点眼薬の基礎 5. 感染症治療薬（抗菌薬） 6. 感染症治療薬（抗真菌薬） 7. 感染症治療薬（抗ヘルペス薬） 8. 中間まとめ 9. アレルギー治療薬 10. 角膜治療薬・ドライアイ治療薬 11. 炎症治療薬 12. 緑内障治療薬 13. 白内障治療薬，散瞳薬，点眼麻酔薬 14. 催眠薬，骨格筋弛緩剤，耐性と院内感染 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施し，60 点以上を合格とする。評定は，90 点以上を“S”，80 点以上を“A”，70 点以上を“B”，60 点以上を“C”，60 点未満は“D”とする。					
テキスト	視能学第 3 版（文光堂） 点眼薬 クリニカルブック（金原出版）					
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学(医学書院)					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	スポーツ眼科学		分野	専門基礎	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査器機	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義, 演習
担当者	吉本 洋平 (視能訓練士, JACO 認定専任教員)			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	スポーツ眼科について学び、眼の安全を確保できる環境整備, 視機能評価, 最適なパフォーマンスが発揮できる視力矯正, 眼外傷後の視機能や競技能力の回復について学ぶ。					
到達目標	スポーツにおける視能訓練士の役割					
授業計画	1. スポーツに必要な視機能 2. 眼外傷と予防 3. 視覚障がい者スポーツ 4. 静止視力と動体視力 5. 視野と動体視力 6. 視機能評価① 7. 視機能評価② 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験 (プレゼンテーション、レポート) にて 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を "S", 80 点以上を "A", 70 点以上を "B", 60 点以上を "C", 60 点未満は "D" とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版), 視能学第 3 版(文光堂), 視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	公衆衛生学		分野	専門基礎	
				教育内容	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	末松 裕子（保健師，精神保健福祉士）				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 保健師（公衆衛生、社会福祉）及び看護学校講師の実務経験			
授業概要	公衆衛生学は、疾病の予防や健康の保持増進のために、健康課題を社会全体の問題として捉え、その解決・改善をめざす暮らしに直接関わる教科である。 視能訓練士として臨床現場で生かせる公衆衛生学の基本的知識を習得するとともに、果たすべき役割について考える力を培う。					
到達目標	・地域で暮らす人々の健康増進や疾病予防のための環境整備を地域社会全体の視点で捉える公衆衛生の考え方を理解する。 ・保健・医療・福祉制度について概説できる。 ・健康と疾病や障害、生活との関わりを理解する。 ・公衆衛生の課題について理解し、自身の意見を述べるができるようになる。					
授業計画	1. 公衆衛生と健康の概念 2. 健康と疾病や行動に関する保健統計、疫学 3. 社会保障と医療体制 4. 小テスト、感染症対策 5. 生活習慣病予防と健康増進 6. 母子保健、学校保健 7. 精神保健福祉、産業保健 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験 90 点、課題 10 点 計 100 点。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	専門基礎講座 よくわかる公衆衛生 2025 年版／第 16 版（金原出版）					
参考図書	授業の進行に合わせて指示する					
備考・特色	私たちの日常生活では、住んでいる地域や人間関係等目に見えないものや個人の力では変えられない様々なものが影響しており、健康であるためには公衆衛生の観点が必要です。また、「公衆衛生学の概念は、人とどのように一緒に暮らしていくか、どのように健康を保っていくのか等、範囲が広い。」とも言われます。よって、前回の授業内容のポイントについて確認し、次回のテーマの範囲を予習することを期待します。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	保健医療福祉学Ⅰ		分野	専門基礎	
				教育内容	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	井上 桂太郎				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	「社会保障・社会福祉」テキスト講義					
到達目標	医療従事者として必要な「社会保障・社会福祉」に関する基礎的な知識を身につける					
授業計画	1. オリエンテーション 社会保障制度と社会福祉（1 章） 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向（2 章） 2. 医療保障（3 章） 3. 介護保障（4 章） 4. 所得保障（5 章） 5. 公的扶助（6 章） 6. 社会福祉の分野とサービス（7 章） 社会福祉実践と医療・看護（8 章） 社会福祉の歴史（9 章） 7. 全体まとめ 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉～健康支援と社会保障制度 3（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	保健医療福祉学Ⅱ		分野	専門基礎	
				教育内容	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	森尾 高樹				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	昨今、日本の社会構造は、少子高齢化や人口減少など様々な理由により急激な変化を迎えている。このような社会で、障害等の理由から社会的弱者とされる方々を社会はどのように支えるか。医療専門職者としての立場や役割を考える授業とする。					
到達目標	地域包括ケアシステムを中心に、介護保険制度や障害福祉サービス、医療・福祉専門職種間の連携を理解することができる。 視覚障害を中心とした特別支援教育と関係諸機関の役割を理解することができる。					
授業計画	1. 地域包括ケアシステムとは何か？ 2. 地域包括ケアが求められる理由（我が国における社会構造①） 3. 地域包括ケアが求められる理由（我が国における社会構造②） 4. 障害とは何か。ノーマライゼーション、IL 運動から考える。 5. 自助・互助・共助・公助とは 6. 地域包括ケア 深化の歴史と将来展望 7. 障害者保健福祉施策に関する法体系（特別支援教育と視覚障害教育） 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施し、60 点以上を合格とする。評定は 90 点以上を「S」、80 点以上を「A」、70 点以上を「B」、60 点以上を「C」、60 点未満は「D」とする。					
テキスト	系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉講義に応じた資料配布					
参考図書	・厚生労働白書（最新版） ・「地域包括ケアシステムの深化と医療が支えるまちづくり」田中滋監修：東京大学出版 ・「視覚障害教育に携わる方のために」香川邦生：慶應義塾大学出版					
備考・特色	グラフや映像など分かりやすい資料をもとに、グループディスカッションを多く取り入れながら、分かりやすい授業に努めます。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	保健医療福祉学Ⅲ		分野	専門基礎	
				教育内容	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義, 演習
担当者	吉本 洋平 (視能訓練士)				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	医療現場でのスタッフの連携について学び, 3 職種の連携について症例を元にグループ内で検討する。					
到達目標	臨床現場でのチーム医療を理解する。					
授業計画	1. 移植医療について 2. アイスブレイク 3. 3 職種を理解するための検討会 (グループワーク) 4. 3 職種を理解するための検討会 (グループワーク) 5. 3 職種を理解するための検討会 (グループワーク) 6. 3 職種を理解するための検討会 (グループワーク) 7. 発表 8. 発表					
成績評価の方法	グループでの成果発表を評価する。成績は 90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C として「合格」とします。60 点未満は D として「不合格」とする。					
テキスト	なし					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚リハビリテーション学		分野	専門基礎	
				教育内容	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	
	開講期	2 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持ち、初級障がい者スポーツ指導員の資格も有している。			
授業概要	ロービジョンについて理解を深め、視覚補助具の種類や使用法を学ぶ。					
到達目標	1) 見えにくいことを体験する中で、視覚障害者の気持ちを知る。 2) 必要な検査や視覚補助具の種類を学ぶ。 3) 倍率の計算ができるようになる。					
授業計画	1. 視覚障害を体験 2. 基礎的な理論と知識 3. チーム医療 4. ロービジョンにおける視機能検査 5. ロービジョンにおける視機能検査 6. ロービジョンエイドの基礎知識 7. ロービジョンエイドの基礎知識 8. ロービジョンエイドの基礎知識 9. 視覚障害リハビリテーションとロービジョンケア 10. ロービジョンエイドの選定の実際 11. ロービジョンエイドの選定の実際 12. 疾患別のロービジョンケア 13. 疾患別のロービジョンケア 14. 身体障害者障害程度等級の評価 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施し、60 点以上を合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学第 3 版（文光堂） ロービジョンケア（医学書院）					
参考図書	新しいロービジョンケア（メジカルビュー社） ロービジョンケアの実際（医学書院）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	医療コミュニケーション学		分野	専門基礎	
				教育内容	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	正 鮎美（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	医療コミュニケーションを学ぶ。 医療面接について目的と方法を理解する。					
到達目標	医療面接で得た情報から，診断にたどり着くために必要な検査をあげ，また各病態の検査結果を予測することができる。					
授業計画	1. 医療コミュニケーション 患者-医療者間のコミュニケーション 2. 〃 医療者間のコミュニケーション 3. チーム医療 4. 医療面接 5. 医療面接 6. 医療面接演習 7. まとめ 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験：単位認定試験 100 点。評価は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	視能学 第 3 版（文光堂），視能訓練学（医学書院） 視能検査学（医学書院）					
参考図書	ケースで学ぶ視能矯正臨床思考（文光堂）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎視能矯正学Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	正常両眼視機能を理解し説明ができるようにする 両眼視機能の異常を概念的に理解する					
到達目標	両眼でそれぞれ受け入れた感覚を統合して生じた見え方を図などを用いて説明できるようにする					
授業計画	1. 両眼視機能の体験（同時視・融像・立体視・複視） 2. 両眼視機能の定義と正常両眼視機能（実際空間と視空間、網膜対応） 3. 正常両眼視機能（ホロプテル円、Panum の融像感覚圏） 4. 正常両眼視機能（同時視・融像・深径覚） 5. 正常両眼視機能（静的立体視・動的立体視・抑制） 6. 両眼視機能の発達、両眼視機能の成立条件 7. 中間試験 8. 両眼視機能の異常（抑制・混乱視・複視） 9. 両眼視機能の異常（網膜対応異常） 10. 両眼視機能の異常（網膜対応異常） 11. 抑制と異常対応の関係 12. 両眼視機能の異常（複視の種類） 13. 両眼視機能の異常（複視の種類） 14. 試験対策 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間試験（筆記）5 割、単位認定試験（筆記）5 割とする。評価は、90 点以上を“S”、80 点以上を“A”、70 点以上を“B”、60 点以上を“C”、60 点未満は“D”とする。					
テキスト	視能学 第 3 版(文光堂)，視能学エキスパート視能訓練学(医学書院)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂)，視能矯正学(金原出版)，両眼視(金原出版)					
備考・特色	講義の中でその都度練習問題を解きながら理解を深めていく。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎視能矯正学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	正 鮎美（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	眼位および両眼視の成立と眼球運動の関わりを理解する。また，斜視の定義・病因論および分類について学習する。2 年次の視能矯正学各論，視能矯正学実習の内容の根幹であるため，確実に理解することが重要である。					
到達目標	① 外眼筋の作用と眼球運動について説明できる。 ② 外眼筋の生理学について説明できる。 ③ 眼位の基本的理念について説明できる。					
授業計画	1. 眼位の定義・種類・状態 2. 斜視の定義・病態 3. 斜視の病因論 4. 斜視の分類 5. 斜視の分類 6. 習熟度確認 7. 外眼筋の解剖・走行 8. 外眼筋の作用と神経支配 9. 眼球模型作成 10. 眼球模型作成 11. 単眼運動について 12. 両眼運動について 13. 共同筋・拮抗筋 14. 眼球運動の種類と制御機構・眼球運動障害 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	習熟度確認（筆記）50 点・単位認定試験（筆記）50 点 計 100 点。評価は，90 点以上を“S”，80 点以上を“A”，70 点以上を“B”，60 点以上を“C”，60 点未満は“D”とする。					
テキスト	視能学／第 3 版（文光堂），視能訓練学／第 2 版（医学書院）					
参考図書	斜視と眼球運動異常（文光堂），神経眼科を学ぶ人のために／第 3 版（医学書院）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎視能矯正学Ⅲ		分野	専門					
				教育内容	基礎視能矯正学					
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義				
担当者	正 鮎美（視能訓練士）				専任兼任の別	専任				
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)							
授業概要	近見反応や両眼離反運動，AC/A 比について理解する。									
到達目標	① 近見反応について説明ができる。 ② 両眼離反運動について説明ができる。 ③ AC/A 比測定に必要な条件を説明でき，データから AC/A 比を算出できる。									
授業計画	1. 近見反応とは 2. 両眼離反運動 3. 両眼離反運動 4. AC/A 比 5. AC/A 比 6. AC/A 比 7. AC/A 比 8. 単位認定試験									
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）100 点。評価は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。									
テキスト	視能学 第 3 版（文光堂），視能訓練学 第 2 版（医学書院）									
参考図書										
備考・特色										

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生理光学Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	屈折と調節の光学を理解する。					
到達目標	1) 屈折の光学と調節の光学を理解する。 2) 屈折検査と調節検査ができるように知識を深める。					
授業計画	1. 眼球光学系（屈折力，眼の光軸と視軸，収差） 2. 屈折の光学 3. 屈折の異常（近視）（遠視） 4. 屈折の異常（乱視） 5. 屈折の異常（乱視） 6. 遠見の自覚的屈折検査（レンズ交換法①） 7. 遠見の自覚的屈折検査（レンズ交換法②） 8. 遠見の自覚的屈折検査（放射線乱視表を用いた乱視の測定方法①） 9. 遠見の自覚的屈折検査（クロスシリンダーを用いた乱視の測定方法①） 10. 不同視，不等像視，無水晶体眼，老視 11. 調節の光学，調節の異常 12. 調節力 13. 近見の自覚的屈折検査，自覚的調節検査 14. 他覚的調節検査，アコモドタイム 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施し，60 点以上を合格とする。評定は，90 点以上を“S、”，80 点以上を“A、”，70 点以上を“B、”，60 点以上を“C、”，60 点未満は“D、”とする。					
テキスト	理解を深めよう 視力検査屈折検査（金原出版），視能学第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生理光学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	他覚的屈折検査を行う上での知識を深める。					
到達目標	各検査の原理を理解し、演習に繋げる。					
授業計画	1. 検影法① 2. レフラクトメータ① 3. レフラクトメータ② 4. 角膜形状解析① 5. 角膜形状解析② 6. 波面収差解析① 7. 波面収差解析② 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施し、60 点以上を合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	理解を深めよう 視力検査屈折検査（金原出版）、視能学第 3 版（文光堂） 視能検査学（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生理光学演習 I		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	1 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	生理光学 I の内容を理解した上で正確な自覚的屈折検査と調節検査ができるようにする。					
到達目標	1) 自覚的屈折検査が正確にできるようになる。 2) 調節検査が正確にできるようになる。					
授業計画	1. 遠見の自覚的屈折検査（レンズ交換法③） 2. 演習 3. 演習 4. 遠見の自覚的屈折検査（放射線乱視表を用いた乱視の測定方法②） 5. 遠見の自覚的屈折検査（放射線乱視表を用いた乱視の測定方法③） 6. 演習 7. 演習 8. 遠見の自覚的屈折検査（クロスシリンダーを用いた乱視の測定方法②） 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習（実技試験） 14. 演習（実技試験） 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	実技試験を 50 点，筆記試験を 40 点，レポートを 10 点とし 60 点以上を合格とする。 評定は，90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	理解を深めよう 視力検査屈折検査（金原出版），視能学第 3 版（文光堂） 視能検査学（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生理光学演習Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	佐藤 千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	生理光学Ⅱの内容を理解した上で正確な他覚的屈折検査ができるようにする。					
到達目標	他覚的屈折検査の方法を理解し，正しく測定ができるようになる。					
授業計画	1. 検影法② 2. ポータブルレフラクトメータ，フォトスクリーナー 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習（実技試験） 8. 演習（実技試験） 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習（実技試験） 15. 演習（実技試験）					
成績評価の方法	実技試験を 90 点，レポートを 10 点とし，60 点以上を合格とする。評定は，90 点以上を“S”，80 点以上を“A”，70 点以上を“B”，60 点以上を“C”，60 点未満は“D”とする。					
テキスト	理解を深めよう 視力検査屈折検査（金原出版），視能学第 3 版（文光堂） 視能検査学（医学書院）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生理光学演習Ⅲ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	自覚的屈折検査の基本的な方法を用いながら，様々な屈折異常の矯正技術を習得する。					
到達目標	様々な屈折異常に対する実践的な矯正技術を修得する。 他覚的屈折値が無くても正確な自覚的屈折値を測定することができる。					
授業計画	1. 自覚的屈折検査：屈折矯正をより早く正確に行うための手順（その①） 2. 自覚的屈折検査：屈折矯正をより早く正確に行うための手順（その②） 3. 《演習》視力値を参考にしない矯正方法，遠視症例の演習課題 4. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出① 5. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出② 6. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出③ 7. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出④ 8. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（放射線乱視表①） 9. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（放射線乱視表②） 10. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（放射線乱視表③） 11. 自覚的屈折検査：屈折矯正をより早く正確に行うための手順（その③） 12. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（クロスシリンダー①） 13. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（クロスシリンダー②） 14. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（クロスシリンダー③） 15. 単位認定試験／技術試験 捕. 《演習》屈折矯正：様々な屈折度への対応 捕. 《演習》屈折矯正：様々な屈折度への対応 捕. 《演習》屈折矯正：様々な屈折度への対応					
成績評価の方法	ルーブリック評価（毎時間，技術確認を行い，その到達度によって評価を行うとともに，最終回に改めて技術試験を行う）。評価は，90 点以上を “S _⓪ ”，80 点以上を “A _⓪ ”，70 点以上を “B _⓪ ”，60 点以上を “C _⓪ ”，60 点未満は “D _⓪ ” とする。					
テキスト	理解を深めよう 視力検査・屈折検査（金原出版） 屈折異常の矯正／第 7 版（金原出版）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	屈折矯正 I		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	眼鏡処方検査の基本的な考え方と検査に必要な知識を習得する。					
到達目標	成人と小児に対する眼鏡処方検査の基本的な方法を理解する。 プリズム眼鏡の適応を理解する。					
授業計画	1. 屈折矯正の概念 2. 処方検査に必要な知識（レンズとフレーム） 3. 眼鏡処方検査（成人眼鏡調整の基本的検査） 4. 眼鏡処方検査（成人眼鏡調整の基本的検査） 5. 眼鏡処方検査（成人眼鏡調整の基本的検査） 6. 眼鏡処方検査（眼疾患の眼鏡処方検査） 7. 眼鏡処方検査（眼疾患の眼鏡処方検査） 8. 前半まとめ 9. 眼鏡処方検査（小児の眼鏡） 10. 眼鏡処方検査（小児の眼鏡） 11. 眼鏡処方検査（プリズム眼鏡） 12. 後半まとめ、演習の導入、実施計画 13. 《演習》サイプレジン点眼による近用眼鏡処方、老視の体験〔表裏〕 14. 演習の振り返り、まとめ 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	屈折異常とその矯正 改定第 7 版（金原出版） 理解を深めよう 視力検査・屈折検査（金原出版） 視能学エキスパート 光学・眼鏡 第 2 版（医学書院） 視能学エキスパート 視能訓練学 第 2 版（医学書院） 視能学エキスパート ロービジョンケア（医学書院） 視能学 第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	屈折矯正Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	眼鏡やコンタクトレンズの処方検査に必要な知識を習得する。 また、臨床で行われているその他の屈折矯正方法についても習得する。					
到達目標	コンタクトレンズの構造、取り扱い、処方検査の基本的な方法を理解する。 眼鏡レンズとコンタクトレンズの光学的特性とその違いを理解する。					
授業計画	1. コンタクトレンズ（レンズの種類） 2. コンタクトレンズ（レンズの構造） 3. コンタクトレンズ（適応と禁忌） 4. コンタクトレンズ（レンズの光学） 5. コンタクトレンズ（処方検査） 6. コンタクトレンズ（処方検査） 7. 前半まとめ、演習 8. 《演習》HCL および SCL の装脱練習 9. 《演習》HCL 処方のための検査〔表裏〕 10. その他の屈折矯正（眼内レンズ、手術的療法） 11. その他の屈折矯正（屈折異常の予防と治療、調節の治療） 12. 眼鏡レンズとコンタクトレンズの比較 13. 後半まとめ、演習 14. 屈折矯正のまとめ 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	屈折異常とその矯正 改定第 7 版（金原出版） 理解を深めよう 視力検査・屈折検査（金原出版） 視能学エキスパート 光学・眼鏡 第 2 版（医学書院） 視能学エキスパート 視能訓練学 第 2 版（医学書院） 視能学エキスパート ロービジョンケア（医学書院） 視能学 第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚生理学 I		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	視野について履修し、正常視野や異常視野の障害部位を理解する					
到達目標	視野の特徴を習得し、使用目的や検査対象を理解する					
授業計画	1. 視野①（視野の概念、視覚伝導路） 2. 視野②（動的視野と静的視野、閾値） 3. 視野③（視野検査の種類とその特徴） 4. “ 5. 視野④（視野に影響する因子） 6. 視野⑤（視野異常の種類） 7. 視野⑥（視覚伝導路の視野異常） 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）にて 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート視能検査学第 2 版(医学書院)、理解を深めよう視力検査 屈折検査 (金原出版)、理解を深めよう視野検査(金原出版)、視能学第 3 版(文光堂)					
参考図書	随時紹介					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚生理学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	色覚と限界フリッカ値、光覚について理解する					
到達目標	色覚と限界フリッカ値、光覚の特徴を習得し、使用目的や検査対象を理解できる					
授業計画	1. 限界フリッカ値①（検査対象、目標と限界、測定原理と検査結果の解釈） 2. 色覚①（色の性質、色覚メカニズムと生理） 3. 色覚②（色覚検査の種類） 4. “ 5. 色覚③（色覚異常の種類） 6. “ 7. 中間まとめ試験 8. 光覚①（網膜の光化学と分光視感度、明順応・暗順応、暗順応検査） 9. 光覚②（夜盲・昼盲疾患と検査結果の解釈） 10. 視野⑧（視野異常の測定） 11. “ 12. “ 13. “ 14. 視覚生理学と脳 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）5 割、中間まとめ試験（筆記）5 割。合計点が 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート視能検査学第 2 版(医学書院)、視能学エキスパート視能訓練学第 2 版(医学書院)、理解を深めよう視野検査(金原出版)、視能学第 3 版(文光堂)					
参考図書	随時紹介					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚生理学演習 I		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	視力検査、視野検査の検査方法を技術的に履修する。					
到達目標	視力、視野検査の検査方法、結果の判定、対象と目的を理解する。					
授業計画	1. 視力検査方法①② 講義 2. 視力検査①② 演習① 3. “ 4. 視野検査方法①（GP） 講義 5. “ 6. 視野検査①（GP） 演習② 7. “ 8. 視野検査②（黑板視野計、中心暗点計、対座法） 講義 9. 視野検査② 演習③ 10. “ 11. 視野検査①② 演習④ 12. “ 13. 実技試験 14. “ 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）6 割、実技試験 4 割の合計が 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート視能検査学第 2 版(医学書院)、理解を深めよう視力検査 屈折検査(金原出版)、理解を深めよう視野検査(金原出版)、視能学第 3 版(文光堂)					
参考図書	随時紹介					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚生理学演習Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	視野検査、限界フリッカ値の検査方法を技術的に履修する。					
到達目標	視野、視野検査の検査方法、結果の判定、対象と目的を理解する。					
授業計画	1. 視野検査③（HFA） 講義 2. “ 3. 視野検査①（GP）、③（HFA） 演習 4. “ 5. 限界フリッカ検査（近大式 CFF） 講義 6. 視野検査①、③、限界フリッカ検査 演習 7. “ 8. 色覚検査方法①（仮性同色表、パネル D-15） 講義 9. 色覚検査方法②（100 hue test、アノマロスコープ） 講義 10. 色覚検査①、② 演習 11. “ 12. 光覚検査（Goldmann Weekers 暗順応計） 講義、演習 13. まとめ 演習 14. 実技試験 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験 6 割、実技試験 4 割の合計が 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート視能検査学第 2 版(医学書院)、理解を深めよう視野検査(金原出版)、視能学第 3 版(文光堂)					
参考図書	随時紹介					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚生理学演習Ⅲ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	御幡 美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	視野検査演習					
到達目標	異常視野の測定					
授業計画	1. 異常視野の測定方法 講義 2. 正常視野の測定 3. “ 4. “ 5. “ 6. 異常視野測定の検討 講義 7. “ 8. 異常視野測定 演習 9. “ 10. “ 11. “ 12. “ 13. “ 14. 実技試験 15. 実技試験					
成績評価の方法	実技評価にて技術確認を行い，その到達度が 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	理解を深めよう 視野検査(金原出版)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能検査学Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，JACO 認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科一般検査を履修する					
到達目標	1）視覚検査機器の基本的知識の習得 2）使用方法 3）結果判定 4）対象と目的を理解する					
授業計画	1. 外眼部検査① 瞼裂幅測定、眼瞼挙筋機能検査 2. 外眼部検査② 眼球突出検査（写真撮影、画像診断含む） 3. 角膜検査 角膜内皮，角膜知覚検査，角膜厚計測 4. 眼圧検査、隅角検査 眼圧測定，隅角検査（隅角鏡、前眼部 OCT） 5. 涙液検査 涙液量・涙液の質検査 6. カラー眼底写真撮影（無散瞳） 7. まとめ 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験にて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能検査学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，JACO 認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科一般検査を履修する					
到達目標	1）視覚検査機器の基本的知識の習得 2）使用方法 3）結果判定 4）対象と目的を理解する					
授業計画	1. A モード，B モード，UBM，眼軸長測定と IOL 計算 2. カラー眼底写真撮影（散瞳），蛍光眼底造影検査（FA,IA），自発蛍光（FAF） 3. 光干渉断層計 OCT(後眼部)と OCT アンギオグラフィ 4. ERG 5. EOG 6. VEP 7. ENG，EMG 8. 単位認定試験 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.					
成績評価の方法	筆記試験にて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能検査学演習Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，認定専任教員）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科一般検査を履修する 外眼部検査，角膜検査，眼圧検査，涙液検査，カラー眼底撮影（無散瞳）					
到達目標	視能検査学Ⅰで履修した技術を習得する					
授業計画	1. 演習① 2. “ 3. 演習② 4. “ 5. 演習③ 6. “ 7. 演習④ 8. “ 9. 演習⑤ 10. “ 11. 演習⑥ 12. “ 13. 演習⑦ 14. “ 15. 試験					
成績評価の方法	実技試験、レポートにて 60 点以上で合格とする。評価は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能検査学演習Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，JACO 認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科一般検査を履修する 眼底写真撮影，OCT 撮影，電気生理検査，眼軸長測定					
到達目標	視能検査学Ⅱで履修した技術を習得する					
授業計画	1. 演習① 眼底写真撮影，OCT，眼軸長測定 2. “ 3. 演習② “ 4. “ 5. 演習③ “ 6. “ 7. 演習④ 電気生理検査 ERG/EOG 8. “ 9. 演習⑤ “ 10. “ 11. 演習⑥ 電気生理検査 VEP/ENG 12. “ 13. 演習⑦ “ 14. “ 15. 試験					
成績評価の方法	実技試験、レポートにて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	両眼視機能の各検査の特徴を把握し、症例に合わせた検査が選択できるようになるとともに、各検査結果の判定が出来るようにする。					
到達目標	両眼視機能の各検査の特徴を理解し各検査の総合判定ができるようにする。					
授業計画	1. 両眼視機能検査の目的と適応 2. 立体視検査の図形の原理,立体視検査の長所短所と注意点 3. 立体視,不等像視検査 4. 網膜対応検査の項目と注意点 5. 網膜対応検査（Red filter test） 6. 網膜対応検査（Bagolini S-G Test・Worth 4 dot test） 7. 網膜対応検査（After image test・残像ひきとり試験・両眼 Visuscope test） 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験にて 60 点以上で合格とする。評定は、90 点以上を“S、”，80 点以上を“A、”，70 点以上を“B、”，60 点以上を“C、”，60 点未満は“D、”とする。					
テキスト	視能学エキスパート 視能訓練学(医学書院)，視能学エキスパート 視能検査学(医学書院)，理解を深めよう 視力検査・屈折検査(金原出版)，視能学 第3 版(金原出版)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂)，視能矯正学(金原出版)，眼科検査法ハンドブック(医学書院)， 視能矯正マニュアル(メディカル葵出版)					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視の入力および出力系検査の目的や検査方法を習得する。					
到達目標	各検査の目的や検査方法を理解する。					
授業計画	1. 斜視検査 概論 2. 固視 定性検査 3. 固視 定量検査 4. 眼位 定性検査 5. 眼球運動 定性検査 6. 頭位検査 7. 斜視の診断に必要なその他の検査（patch test, doll's eye, Bell），まとめ 8. 単位認定試験／筆記試験					
成績評価の方法	単位認定試験／筆記試験。評価は，90 点以上を “S”， 80 点以上を “A”， 70 点以上を “B”， 60 点以上を “C”， 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能訓練学 第 2 版（医学書院），視能検査学 第 2 版（医学書院）， 視能学 第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学Ⅲ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	両眼視機能の各検査の特徴を把握し、症例に合わせた検査が選択できるようになるとともに、各検査結果の判定が出来るようにする。					
到達目標	両眼視機能の各検査の特徴を理解し各検査の総合判定ができるようにする。					
授業計画	1. 抑制検査，他覚的網膜対応検査， 4 Δ基底外方試験 2. 多目的検査，大型弱視鏡（構造と目的と特徴） 3. 大型弱視鏡（同時視） 4. 大型弱視鏡（融像） 5. 大型弱視鏡（立体視） 6. 大型弱視鏡（他覚的斜視角測定法， 9 方向眼位測定法） 7. 総復習 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験にて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S、”， 80 点以上を “A、”， 70 点以上を “B、”， 60 点以上を “C、”， 60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	視能学エキスパート 視能訓練学(医学書院)，視能学エキスパート 視能検査学(医学書院)，理解を深めよう 視力検査・屈折検査(金原出版)，視能学 第3版(金原出版)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂)，視能矯正学(金原出版)，眼科検査法ハンドブック(医学書院)， 視能矯正マニュアル(メディカル葵出版)					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学Ⅳ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視の出力系検査の目的や検査方法を習得する。					
到達目標	各検査の目的や検査方法を理解する。					
授業計画	1. 眼球運動 定量検査の実際（Hess 赤緑試験） 2. 眼球運動 定量検査の実際（注視野検査） 3. 眼球運動 定量検査の実際（よせ運動検査） 4. 眼球運動 定量検査（結果の判定） 5. 眼球運動 定量検査（結果の比較） 6. 斜視の診断に必要なその他の検査（FDT, EMG, EOG, テンシロン, 瞳孔） 7. 斜視の診断に必要なその他の検査（血液・髄液, 画像, 写真技術）, まとめ 8. 単位認定試験／筆記試験					
成績評価の方法	単位認定試験／筆記試験。評定は, 90 点以上を “S” , 80 点以上を “A” , 70 点以上を “B” , 60 点以上を “C” , 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能訓練学 第 2 版（医学書院）, 視能検査学 第 2 版（医学書院）, 視能学 第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学演習 I		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	症例に合わせた検査が選択できるようになるとともに、各検査結果の総合判定ができるようになる					
到達目標	両眼視機能の各検査の特徴を理解し検査の技術向上を目指す					
授業計画	1. 立体視 2. 立体視,不等像視検査 3. 演習 4. 網膜対応検査（Red filter test） 5. 演習 6. 網膜対応検査（Bagolini S-G Test・Worth 4 dot test） 7. 網膜対応検査（After image test・残像ひきとり試験・両眼 Visuscope test） 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習（網膜対応検査(異常眼)） 13. 演習（網膜対応検査(異常眼)） 14. 演習（実技確認） 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試 3 割、実技試験 3 割、実習取り組み方 2 割、レポート提出 2 割で計 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート 視能訓練学(医学書院), 視能学エキスパート 視能検査学(医学書院), 理解を深めよう 視力検査・屈折検査(金原出版), 視能学 第 3 版(金原出版)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂), 視能矯正学(金原出版), 眼科検査法ハンドブック(医学書院), 視能矯正マニュアル(メディカル葵出版)					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学演習Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視の入力および出力系検査の方法と検査技術を習得する。					
到達目標	各検査の検査技術を修得する					
授業計画	1. 《演習》固視・眼位検査 2. 〃 3. 《演習》固視・眼位・眼球運動検査 4. 〃 5. 眼位 定量検査 6. 眼位 定量検査の実際／①角膜反射による方法 7. 眼位 定量検査の実際／②遮閉による方法 8. 眼位 定量検査の実際／③Maddox 杆を用いる方法 9. 眼位 定量検査の実際／④回線偏位の測定法 10. 《演習》眼位（定性および定量，BHTT も）・眼球運動検査 11. 〃 12. 《演習》眼位（定性および定量，AC/A 比も）・眼球運動検査 13. 〃 14. 単位認定試験／技術試験（眼位・眼球運動の定性検査） 15. 単位認定試験／筆記試験					
成績評価の方法	単位認定試験／技術試験 5 割，筆記試験 5 割。評価は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	視能訓練学 第 2 版（医学書院），視能検査学 第 2 版（医学書院）， 視能学 第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学演習Ⅲ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	症例に合わせた検査が選択できるようになるとともに、各検査結果の総合判定ができるようになる					
到達目標	両眼視機能の各検査の特徴を理解し検査の技術向上を目指す					
授業計画	1. 抑制検査，他覚的網膜対応検査， 4 Δ基底外方試験 2. 演習 3. 演習 4. 大型弱視鏡（同時視・融像） 5. 大型弱視鏡（融像・立体視） 6. 演習 7. 演習 8 大型弱視鏡（他覚的斜視角測定法・9 方向眼位測定法） 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習（実技確認試験） 14. 演習（実技確認試験） 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試 3 割、実技試験 3 割、実習取り組み方 2 割、レポート提出 2 割で計 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学エキスパート 視能訓練学(医学書院)，視能学エキスパート 視能検査学(医学書院)，理解を深めよう 視力検査・屈折検査(金原出版)，視能学 第 3 版(金原出版)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂)，視能矯正学(金原出版)，眼科検査法ハンドブック(医学書院)， 視能矯正マニュアル(メディカル葵出版)					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学演習Ⅳ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視の出力系検査の方法と検査技術を習得する。					
到達目標	各検査の検査技術を修得する。					
授業計画	1. 《演習》眼位・眼球運動検査／水平の眼位異常を想定 2. ” 3. 《演習》眼位・眼球運動検査／垂直の眼位異常を想定 4. ” 5. 単位認定試験／技術試験①（プリズム遮閉試験） 6. ” 7. 《演習》眼球運動（定性および定量）検査 8. ” 9. 《演習》眼球運動（定性および定量）検査 10. ” 11. 《演習》固視・眼位・眼球運動・頭位検査 12. ” 13. 《演習》固視・眼位・眼球運動・頭位検査 14. ” 15. 単位認定試験／技術試験②（Hess 赤緑試験）					
成績評価の方法	技術試験① 5 割，② 5 割。評価は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	視能訓練学 第 2 版（医学書院），視能検査学 第 2 版（医学書院）， 視能学 第 3 版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能障害学Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	視能障害学	
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，認定専任教員）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能障害に従事			
授業概要	主要眼疾患の基本的知識					
到達目標	視能障害の予防と治療の観点から，種々の障害を理解する。					
授業計画	1. 眼窩・眼瞼・涙器の解剖と生理 2. “ ” の病態と検査・治療 3. 角膜、結膜、強膜の解剖生理 4. “ ” の病態と検査・治療① 5. ぶどう膜の解剖生理 6. “ ” の病態と検査・治療① 7. “ ” の病態と検査・治療② 8. 中間試験 9. 網膜の解剖生理 10. “ ” の病態と検査・治療① 11. “ ” の病態と検査・治療② 12. 緑内障に関する解剖生理 13. “ ” の病態と検査・治療① 14. “ ” の病態と検査・治療② 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間テストと単位認定試験にて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能障害学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能障害学	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	主要眼疾患の基本的知識					
到達目標	視能障害の予防と治療の観点から，種々の障害を理解する。					
授業計画	1. 復習① 2. 水晶体の解剖生理 3. “ ” の病態と検査・治療 4. 視神経の解剖生理 5. “ ” の病態と検査・治療 6. 全身疾患と眼、免疫と眼 7. 身体表現性障害 8. 中間試験 9. 復習② 10. 視路の解剖生理 11. “ ” の病態と検査・治療① 12. 瞳孔の解剖生理 13. “ ” の病態と検査・治療① 14. “ ” の病態と検査・治療② 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間テストと単位認定試験にて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能障害学Ⅲ		分野	専門	
				教育内容	視能障害学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	久保田 敏昭（医師） 八重 康夫（医師）				専任兼任の別	兼任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）大分大学医学部眼科前教授、 現在は 大分大学名誉教授、眼科特任教授。眼科医。			
授業概要	眼および眼付属器の疾病について学ぶ					
到達目標	眼および眼付属器の主要な疾患について病態、症状、検査所見および治療について理解し、述べることができる。					
授業計画	<p>以下の項目について学ぶ</p> <p>1. 眼瞼，涙器，眼窩</p> <p>解剖と機能、涙液の構造と機能、導涙、眼瞼下垂、睫毛・眼瞼内反、兔眼、麦粒腫、霰粒腫、睫毛乱生、鼻涙管閉塞、涙嚢炎、涙液分泌減少症・眼乾燥症、眼球突出、眼窩腫瘍、眼窩の外傷</p> <p>2. 結膜，角膜，強膜</p> <p>解剖と機能、角膜の生理、結膜炎、角膜炎、角膜潰瘍、角膜ジストロフィ、円錐角膜、水疱性角膜症、強膜炎</p> <p>3. 水晶体・調節の異常</p> <p>前眼部の解剖、調節、白内障、水晶体偏位・脱臼、眼内レンズ、調節痙攣、調節不全、老視</p> <p>4. 緑内障</p> <p>隅角の解剖、視神経および周囲の緑内障変化、房水の生理、房水流出路、眼圧、原発開放隅角緑内障、正常眼圧緑内障、原発閉塞隅角緑内障、小児緑内障、原発閉塞隅角病</p> <p>5. ぶどう膜</p> <p>ぶどう膜の解剖・生理、虹彩毛様体炎、ぶどう膜炎、ぶどう膜の先天異常、ぶどう膜腫瘍</p> <p>6. 網膜・硝子体</p> <p>網膜の解剖と機能、色覚、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、糖尿病網膜症、網膜色素変性症、中心性漿液性脈絡網膜症、未熟児網膜症、加齢黄斑変性、網膜剥離、網膜芽細胞腫、硝子体出血・混濁、硝子体手術、網膜剥離手術</p> <p>7. 視神経・視路，瞳孔</p> <p>視路の解剖、視野異常、瞳孔の神経支配・解剖と生理、視神経炎、視神経症、うっ血乳頭、視神経交叉とその近傍の疾患、外側膝状体の疾患、視放線・後頭葉の疾患、瞳孔不同、瞳孔緊張症、対光反射とその異常、近見反応</p> <p>8. 単位認定試験</p>					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	配布資料およびスライドで講義する					
参考図書	病気がみえる vol 12 眼科（Medic Media）、標準眼科学（医学書院）、現代の眼科学（金原出版）、視能訓練士国家試験合格ノート（文光堂）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能障害学演習		分野	専門	
				教育内容	視能障害学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	吉本 洋平（視能訓練士，JACO 認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科解剖生理，眼疾病に必要な検査，治療の復習し、提示された症例に対しグループで討論し適切な答えを導き出す。また、チームカンファレンスの必要性を学び、学生同士で補い合う。					
到達目標	基礎知識を活かし症例を検討する。問題思考型システム（POS）の手法を用い，SOAPで考えることができる。					
授業計画	1. 問題思考型システム（POS） 2. 症例検討①角結膜疾患 3. “ 4. 症例検討②水晶体疾患 5. “ 6. 症例検討③網膜疾患 7. “ 8. 中間試験 9. 症例検討④黄斑疾患 10. “ 11. 症例検討⑤緑内障 12. “ 13. 症例検討⑥視神経疾患 14. “ 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間試験と単位認定試験にて 60 点以上で合格とする。評定は，90 点以上を “S” ， 80 点以上を “A” ， 70 点以上を “B” ， 60 点以上を “C” ， 60 点未満は “D” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	弱視各論		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	1 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	弱視について必要な知識を得るために分類や病態などを学ぶ					
到達目標	病態、検査結果からどのような弱視であるのか判断できるようになる					
授業計画	1. 小児の視能発達の特徴、感受性期 2. 弱視とは（定義・定義の変遷・原因） 3. 弱視の病態 4. 弱視の分類（斜視弱視・微小斜視弱視） 5. 弱視の分類（不同視弱視・屈折異常弱視） 6. 弱視の分類（形態覚遮断弱視） 7. 各弱視総まとめ 8. 中間試験 9. 乳幼児の視力検査の種類（定性・定量） 10. 調節麻痺薬について 11. 自覚的屈折検査、他覚的屈折検査 12. 固視検査・その他の検査 13. 健診（乳児健診，1 歳半健診，3 歳児健診） 14. 健診（就学時健診，学校健診），総まとめ 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間試験 50 点（筆記）、単位認定試験（筆記）50 点。評価は，90 点以上を “S、”，80 点以上を “A、”，70 点以上を “B、”，60 点以上を “C、”，60 点未満は “D、” とする。					
テキスト	視能学 第 3 版(文光堂)，視能学エキスパート視能訓練学(医学書院)， 視能学エキスパート視能検査学(医学書院)，理解を深めよう視力検査・屈折検査(金原出版)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂)，視能矯正学(金原出版)，小児の弱視と視機能発達(三輪書店)， 弱視・斜視診療のスタンダード(中山書店)					
備考・特色	毎回、前回の講義内容の復習小テストを行い、解度を深めて次の講義へ進む。					

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	弱視視能訓練学		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2 年 前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚 美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	弱視についての基本的知識の復習をふまえながら各病態の治療法を学び理解する					
到達目標	弱視の病態から治療法を選択でき、経過観察時の必要な検査が考えられるようになる					
授業計画	1. 弱視総論（弱視の各病態の復習）、弱視治療（目標から3原則） 2. 弱視治療 3. 光学的視能矯正（光学的治療の概念、光学的矯正と関連事項） 4. 光学的視能矯正（屈折検査の注意点など、ペナリゼーション） 5. 光学的視能矯正（ペナリゼーション、アトロピン点眼療法、Moore-Johnson 法） 6. 光学的視能矯正（逆プリズム法、Bangerter filter による遮閉法） 7. 中間試験 8. 能動的視能矯正（遮閉法の原理・目的・種類） 9. 能動的視能矯正（遮閉法の分類・副作用・禁忌） 10. 能動的視能矯正（弱視視能訓練、訓練で使用する器械・家庭訓練） 11. 薬理学的視能矯正（薬物療法）、型別治療 12. 弱視治療効果の判定・評価、ORT とインフォームドコンセントの関わり 13. 症例検討 14. 症例検討 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	中間試験 5 割、単位認定試験（筆記）5 割とする。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学 第3版(文光堂)、視能学エキスパート視能訓練学(医学書院)、 視能学エキスパート視能検査学(医学書院)、理解を深めよう視力検査・屈折検査(金原出版)					
参考図書	視能学 増補版(文光堂)、視能矯正学(金原出版)、小児の弱視と視機能発達(三輪書店)、 弱視・斜視診療のスタンダード(中山書店)					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	斜視各論Ⅰ		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2 年 前期	4 単位 60 時間		主たる授業方法	講義
担当者	正 鮎美（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視の基本的知識および治療法を理解する。斜視の各型については内斜視、外斜視、上下回旋斜視、交代性上斜位、A-V 型斜視、微小斜 視の病因と診断を理解する。麻痺性斜視の種類、原因と責任病巣、症候と診断、その他の眼球運動障害を伴う斜視の種類と病因、診断、眼性頭位異常の症候と診断を理解する。					
到達目標	① 内斜視・外斜視・上下斜視・回旋斜視・A-V 型斜視・交代性上斜位・微小斜視・麻痺性斜視など各病態を説明できる。 ② 眼球運動障害の基本的知識を有し、各病態を説明できる。					
授業計画	1. 眼振の定義・分類・種類 2. 生理的眼振・病的眼振 3. 病的眼振 4. 眼振の検査 5. 眼振の治療 6. まとめ 7. 非麻痺性斜視 内斜視① 8. 内斜視② 9. 内斜視③ 10. 外斜視① 11. 外斜視② 12. AV 型斜視 13. 微小斜視、交代性上斜位 14. まとめ 15. 習熟度確認			16. 麻痺性斜視・核上性障害 17. 水平衝動性眼球運動障害① 18. 水平衝動性眼球運動障害② 19. 垂直衝動性眼球運動障害① 20. 垂直衝動性眼球運動障害② 21. よせ運動の障害 22. 全眼球運動障害 23. まとめ 24. 核・核下性障害 25. 動眼神経麻痺 26. 外転神経麻痺 27. 滑車神経麻痺 28. 全外眼筋麻痺 29. まとめ 30. 単位認定試験		
成績評価の方法	筆記試験：習熟度確認（50 点）、単位認定試験（50 点）。評定は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学 第 3 版（文光堂）、視能訓練学 第 2 版（医学書院）、神経眼科を学ぶ人のために 第 4 版（医学書院）					
参考図書	ケースで学ぶ視能矯正臨床思考（文光堂）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	斜視各論Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	正 鮎美（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視特殊型の病因と診断，治療を理解する。 眼振の分類，診断，検査，治療を理解する。					
到達目標	① 全ての種類の斜視の病態と治療法について説明できる。 ② 斜視眼球運動障害については、核上性神経障害、核性神経障害、核下性神経障害、神経筋接合部障害、筋原性障害、機械的障害の相違を説明することができる。 ③ 眼振について説明できる。					
授業計画	1. 神経筋接合部の障害 2. 筋原性麻痺性斜視① 3. 筋原性麻痺性斜視② 4. 筋原性麻痺性斜視③ 5. 機械的斜視 6. Sugging eye syndrome 7. Duane 症候群 8. まとめ 9. 非麻痺性斜視 10. 眼振 11. 核上性眼球運動障害 12. 核、核下性障害 13. 斜視特殊型 14. まとめ 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験：単位認定試験（100 点）。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学 第 3 版（文光堂），視能訓練学 第 2 版（医学書院），神経眼科を学ぶ人のために 第 4 版（医学書院）					
参考図書	ケースで学ぶ視能矯正臨床思考（文光堂）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	斜視視能訓練学		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2 年 後期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	正 鮎美（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	斜視治療の種類や方法を学ぶ。					
到達目標	① 斜視の治療の種類や方法を理解する。 ② 個々の病態に合わせた検査及び治療のイメージができるようにする。					
授業計画	1. 斜視治療の目的・目標・種類 2. 観血療法 適応・禁忌・方針・量定・術前検査・麻酔 3. 術式（弱化術） * 眼球運動復習を含む 4. 術式（強化術，筋移動術：眼筋麻痺） 5. 術式（筋移動術：回旋斜視） 6. 術式（筋移動術：A-V 型斜視）・合併症 7. 斜視型別の術式 8. 習熟度確認 9. 非観血療法 屈折矯正・プリズム矯正 10. ボツリヌス療法・縮瞳薬・調節麻痺薬 11. 視能矯正 単眼固視訓練 12. 網膜異常対応の矯正訓練 13. 抑制除去訓練・生理的複視認知訓練 14. 融像訓練・輻輳訓練・眼球運動訓練 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験：習熟度確認 50 点，単位認定試験 50 点。評価は，90 点以上を“S”、80 点以上を“A”、70 点以上を“B”、60 点以上を“C”、60 点未満は“D”とする。					
テキスト	視能学 第 3 版（文光堂），視能訓練学（医学書院）					
参考図書	視能学 増補版（文光堂），視能矯正学（金原出版）					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚リハビリテーション演習		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	神谷 郁子（歩行訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士） 吉本 洋平（視能訓練士、同行援護従業者応用課程） 大塚 美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	兼任 専任 専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	居宅介護職員初任者研修「同行援護従業者養成研修一般課程」を履修し、実践的な視覚リハビリテーション(ロービジョンケア)を学ぶ					
到達目標	同行援護従業者養成研修一般課程（合計 28 時間）を修了する					
授業計画	1. 外出保障 2. 視覚障がいの理解と疾病① 3. 視覚障がいの理解と疾病② 4. 視覚障がい者(児)の心理 5. 視覚障がい者（児）の福祉の制度とサービス 6. 同行援護の制度 7. 同行援護従業者の実際と職業倫理 8. 情報提供 9. 代筆・代読①と② 10. 誘導の基本技術① 11. 誘導の基本技術② 12. 誘導の応用技術（場面別・街歩き）① 13. 誘導の応用技術（場面別・街歩き）② 14. 交通機関の利用 15. “					
成績評価の方法	レポート提出、授業参加度にて評価する。評価は、90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	現代の眼科学改定第 13 版(金原出版)，視能学第 3 版(文光堂)，視能検査学(医学書院)ロービジョンケア(医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2025 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能訓練学実習		分野	専門	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2 年 後期	1 単位 45 時間		主たる授業方法	実習
担当者	大塚 美和子・正 鮎美（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	■該当 □非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し弱視や斜視の検査および訓練の経験を有する			
授業概要	平松学園内の幼稚園 3 園の園児に対し，斜視や弱視，屈折異常のスクリーニング検査を行う。約500名の園児の健診を週 1 回半年かけて行う。					
到達目標	1）年齢・発達に合わせた対応を身につける。 2）子供を飽きさせず，素早く検査する技術を身につける。 3）斜視，弱視，屈折異常を発見する。					
授業計画	1. オリエンテーション 2. 小児の眼科健診について（グループワーク） 3. 〃 4. 〃 5. 検査項目 実技確認 6. 〃 7. 健診シミュレーション 8. 〃 9. 眼科健診（5 歳児） 10. 眼科健診（5 歳児） 11. 眼科健診（5 歳児） 12. 眼科健診（5 歳児） 13. 眼科健診（5 歳児） 14. 眼科健診（4 歳児） 15. 眼科健診（4 歳児）＊実技評価 16. 眼科健診（4 歳児） 17. 眼科健診（3・4 歳児） 18. 眼科健診（3・4 歳児） 19. 眼科健診（3 歳児） 20. 眼科健診（3 歳児） 21. 眼科健診（3 歳児） 22. 眼科健診（3 歳児）＊実技評価 23. 眼科健診 振り返り					
成績評価方法	実技評価。評定は，90 点以上を “S”、80 点以上を “A”、70 点以上を “B”、60 点以上を “C”、60 点未満は “D” とする。					
テキスト	視能学 第 3 版（文光堂），視能訓練学（医学書院）					
参考図書	視能学 増補版（文光堂），視能矯正学（金原出版）					
備考・特色						